

高位平準動物看護概論 動物病原体・衛生管理 対面学習確認テスト

問題1: 感染が成立するための三要素の組み合わせで正しいのはどれか。

- ① 感染源、発症、感受性個体
- ② 感染源、感染経路、感受性個体
- ③ 感染源、感染経路、感受性集団
- ④ 保菌動物、感染経路、感受性集団
- ⑤ 保菌動物、発症、感受性個体

問題2: 不活化ワクチンについての記載で正しいのはどれか。

- ① 感染力の低い弱毒の病原体である。
- ② 免疫の持続時間が長い。
- ③ アジュバントが必要である。
- ④ 病原性が復帰する可能性がある。
- ⑤ 強い細菌性免疫が誘導される。

問題3: 犬のワクチンについての記載で正しいのはどれか。

- ① コアワクチンは狂犬病ワクチン、ジステンパーワクチン、パルボウイルス感染症ワクチンの3種類である。
- ② レプトスピラ症ワクチンも日本で販売されている。
- ③ 混合ワクチンには必ず狂犬病ワクチンが含まれる。
- ④ ワクチン接種プログラムにおける初回免疫は生後3週齢以内に行うのが望ましい。
- ⑤ 都合16週齢までに3回接種が基本であり、その後の追加免疫は不要である。

問題4: 猫のワクチンについての記載で正しいのはどれか。

- ① コアワクチンは猫ウイルス性鼻気管炎ワクチン、猫カリシウイルス感染症ワクチン、猫汎白血球減少症ワクチン、猫クラミジア感染症ワクチンの4種類である。
- ② 猫カリシウイルス感染症ワクチンには抗原性の異なる3種類のワクチンウイルスを含めた三価タイプもある。
- ③ 猫白血病ウイルス感染症に対するワクチンはない。
- ④ ワクチン接種プログラムにおける初回免疫は生後6週齢以内に行うのが望ましい。
- ⑤ 3回目以降の追加免疫は、3年ごとに実施する。

問題5: 免疫に関する記述で、正しいのはどれか。

- ① 自然免疫は脊椎動物のみがもつ。
- ② 自然免疫では、おもにT細胞とB細胞が関与する。
- ③ 抗原とは細菌のみを指す。
- ④ 抗体を作り出すのはT細胞である。
- ⑤ 形質細胞(プラズマ細胞)はB細胞が分化したものである。

問題6: 免疫に関する記述で、正しいのはどれか。

- ① 抗体には5つのクラスがある。
- ② ある感染症から治ると、その病気には二度とかからなくなることをサイトカインという。
- ③ B細胞は胸腺で分化し、成熟し、自己と非自己を見分ける教育を受ける。
- ④ 液性免疫には抗体は関与しない。
- ⑤ IV型アレルギーに関与するのは液性免疫である。

問題7: 免疫に関する記述で、間違っているものはどれか。

- ① 樹状細胞(DC)は抗原提示細胞である。
- ② ヘルパーT細胞は、細胞性免疫にも液性免疫にもはたらいている。
- ③ インターロイキンやインターフェロンはサイトカインである。
- ④ アレルギーと過敏症は異なるものである。
- ⑤ I型アレルギーはIgEが関与する。

問題8: 感染症に関する記述で、間違っているのはどれか。

- ① 感染経路を絶っても、感染源を撲滅しなければ感染症の予防には意味がない。
- ② 経皮感染とは皮膚を介して感染することをいう。
- ③ 垂直伝搬とは、経胎盤感染など親から子へ感染することをいう。
- ④ 日和見感染とは、易感染性宿主において、普段は害を及ぼさない微生物が感染を起こす状態をいう。
- ⑤ ベクターとは、病原体を媒介するノミなどの節足動物をいう。

問題9: 犬の7種混合ワクチンに含まれる病気の中で、人獣共通感染症はどれか。

- ① 犬ジステンパー
- ② 犬パラインフルエンザ
- ③ 犬伝染性肝炎
- ④ 犬パルボウイルス
- ⑤ 犬レプトスピラ病

問題10: ワクチン接種後に、アレルギー反応として起こるショックはどれか。

- ① 心原性ショック
- ② 敗血症性ショック
- ③ 神経原性ショック
- ④ 循環血液量減少性ショック
- ⑤ アナフィラキシーショック

* 出問参考図書: 動物看護コアテキスト(ファームプレス)、動物看護師統一認定試験対策過去問題集(インターズー)

高位平準動物看護概論 動物病原体・衛生管理 対面学習確認テスト正答

問題1: 感染が成立するための三要素の組み合わせで正しいのはどれか。

- ① 感染源、発症、感受性個体
- ② 感染源、感染経路、感受性個体
- ③ 感染源、感染経路、感受性集団
- ④ 保菌動物、感染経路、感受性集団
- ⑤ 保菌動物、発症、感受性個体

問題2: 不活化ワクチンについての記載で正しいのはどれか。

- ① 感染力の低い弱毒の病原体である。
- ② 免疫の持続時間が長い。
- ③ アジュバントが必要である。
- ④ 病原性が復帰する可能性がある。
- ⑤ 強い細菌性免疫が誘導される。

問題3: 犬のワクチンについての記載で正しいのはどれか。

- ① コアワクチンは狂犬病ワクチン、ジステンパーワクチン、パルボウイルス感染症ワクチンの3種類である。
- ② レプトスピラ症ワクチンも日本で販売されている。
- ③ 混合ワクチンには必ず狂犬病ワクチンが含まれる。
- ④ ワクチン接種プログラムにおける初回免疫は生後3週齢以内に行うのが望ましい。
- ⑤ 都合16週齢までに3回接種が基本であり、その後の追加免疫は不要である。

問題4: 猫のワクチンについての記載で正しいのはどれか。

- ① コアワクチンは猫ウイルス性鼻気管炎ワクチン、猫カリシウイルス感染症ワクチン、猫汎白血球減少症ワクチン、猫クラミジア感染症ワクチンの4種類である。
- ② 猫カリシウイルス感染症ワクチンには抗原性の異なる3種類のワクチンウイルスを含めた三価タイプもある。
- ③ 猫白血病ウイルス感染症に対するワクチンはない。
- ④ ワクチン接種プログラムにおける初回免疫は生後6週齢以内に行うのが望ましい。
- ⑤ 3回目以降の追加免疫は、3年ごとに実施する。

問題5: 免疫に関する記述で、正しいのはどれか。

- ① 自然免疫は脊椎動物のみがもつ。
- ② 自然免疫では、おもにT細胞とB細胞が関与する。
- ③ 抗原とは細菌のみを指す。
- ④ 抗体を作り出すのはT細胞である。
- ⑤ 形質細胞(プラズマ細胞)はB細胞が分化したものである。

問題6: 免疫に関する記述で、正しいのはどれか。

- ① 抗体には5つのクラスがある。
- ② ある感染症から治ると、その病気には二度とかからなくなることをサイトカインという。
- ③ B細胞は胸腺で分化し、成熟し、自己と非自己を見分ける教育を受ける。
- ④ 液性免疫には抗体は関与しない。
- ⑤ IV型アレルギーに関与するのは液性免疫である。

問題7: 免疫に関する記述で、間違っているものはどれか。

- ① 樹状細胞(DC)は抗原提示細胞である。
- ② ヘルパーT細胞は、細胞性免疫にも液性免疫にもはたらいている。
- ③ インターロイキンやインターフェロンはサイトカインである。
- ④ アレルギーと過敏症は異なるものである。
- ⑤ I型アレルギーはIgEが関与する。

問題8: 感染症に関する記述で、間違っているのはどれか。

- ① 感染経路を絶っても、感染源を撲滅しなければ感染症の予防には意味がない。
- ② 経皮感染とは皮膚を介して感染することをいう。
- ③ 垂直伝播とは、経胎盤感染など親から子へ感染することをいう。
- ④ 日和見感染とは、易感染性宿主において、普段は害を及ぼさない微生物が感染を起こす状態をいう。
- ⑤ ベクターとは、病原体を媒介するノミなどの節足動物をいう。

問題9: 犬の7種混合ワクチンに含まれる病気の中で、人獣共通感染症はどれか。

- ① 犬ジステンパー感染症
- ② 犬パラインフルエンザ感染症
- ③ 犬伝染性肝炎
- ④ 犬パルボウイルス感染症
- ⑤ 犬レプトスピラ病

問題10: ワクチン接種後に、アレルギー反応として起こるショックはどれか。

- ① 心原性ショック
- ② 敗血症性ショック
- ③ 神経原性ショック
- ④ 循環血液量減少性ショック
- ⑤ アナフィラキシーショック

* 出問参考図書: 動物看護コアテキスト(ファームプレス)、動物看護師統一認定試験対策過去問題集(インターズー)